

平成19年第3回ふじみ野市議会定例会は、8月30日から9月21日までの23日間開催されました。

この定例会では、平成19年度一般会計ほか特別会計補正予算3件、追加の一般会計補正予算1件、平成18年度決算の認定6件、まちづくりの基本理念や将来像を示す「ふじみ野市総合振興計画基本構想を定めることについて」ほか議案26件。議員から意見書6件が提出されました。

審議の結果、議案はすべて原案のとおり可決・認定・同意され、意見書は3件を可決、3件が否決されました。

20名の議員による一般質問が行なわれました。



霞ヶ丘団地から市内を望む

■平成18年度決算の主な事業	
総合振興計画策定事業	868万円
環境政策推進事業	427万円
火葬場・斎場事業（負担金）	4億2,257万円
西口駅前地区整備事業	4億5,376万円
福岡中央公園拡張整備事業	1億7,132万円
公営住宅供給事業	1億1,603万円
教育環境整備事業	6億4,679万円
アスベスト対策事業	7,392万円
東台小学校建設事業	5,239万円
就学指導・教育相談事業	2,423万円
権現山古墳群保存管理事業	535万円

主な質疑

収納率の改善策は。

答 郵送と電話による催告、月一回の休日収納窓口の開設、徴収嘱託員による臨宅徴収、県への徴収委託等を行ないました。

問 市としての税の軽減策は考えているか。
答 現在、税務課内に検討会を設置して、県内四十市町に対して固定資産税と市民税の軽減について実態調査を実施し、まとめの検討に入

る段階です。

問 学校給食費の徴収方法と徴収率について。

答 上福岡地域では、口座振り替えで収納しています。大井地域では、平成十七年度まで会計事務処理が私会計方式であったので、学校の先生が直接徴収を行なっていました。

徴収率は、上福岡地域が九七・四一％で、大井地域が九九・〇九％でした。

問 障害者基本計画策定について。

答 障害者基本計画は、地域生活への移行の促進と障害者自立支援法に沿った取り組みになっており、障害福祉サービスを推進するには、ボランティアの力が必要なため、それらの育成に視点を向けて、具体的に取組みます。

障害福祉計画は、サービスの確保に基本的な事項を定めながら、平成二十三年度目標を置いて、具体的に取組みます。

問 小児時間外救急診療所の運営について。

答 小児時間外救急診療所は、平成十七年度から二市一町で補助金を東人間医師会に交付して実施しています。平日の夜八時から十時の間、小児救急医療の初期救急医療の位置づけで行なっています。平成十八年度には、三五五人が利用しています。

問 運動指導室の利用者の推移は。
答 本来の保健事業にするために、利用するには医師の意見書が必要です。また年齢の制限を行なった結果、利用者はかなり減ってきています。

問 ごみ処理機能調査の内容と目的について。

答 上福岡焼却炉と大井焼却炉は、老朽化や処理能力の低下が予想されるため、実態を把握して今後の円滑な焼却処理を確保する必要があります。また、現状把握を行なうことにより、広域ごみ処理整備計画の有効性の推進を図ることが目的です。

決算特別委員会は、9月6日・7日に開催。平成18年度ふじみ野市一般会計決算ほか、特別会計算算など5件が審査され、認定されました。平成17年度通年分決算では経常収支比率が99・7％でしたが、平成18年度決算では95・6％に改善されました。

しかし、県平均87・0％（平成17年度と比較しても、依然高いこと）に変わりはなく、状況は厳しいものとなっています。

※経常収支比率とは？ 財政構造の弾力性を判断する比率で、70～80％が標準的とされ、80％を超えるとは財政構造が硬直化していると言われている。

平成18年度
決算 認定

経常収支比率は若干改善

依然状況は厳しく…